

源三位頼政山莊

〔黒谷の東、中山に旧跡あり。〕

東鑑云、治承四年五月廿四日、入道三品中山堂并に山莊等焼失

す云々。是則高倉宮に御謀叛を勸奉り、入道三井寺へ宮を供奉し奉る時、放火すと見へたり

靈鑑寺

〔鹿谷にあり、禪宗〕

本尊不動明王〔智証大師の作、立像、一尺余〕開基は靈鑑院尼公にして、後水尾院皇

女妙法院竟然法親王母公なり。それより代々比丘尼御所御住職し給ふ

如意寺

〔靈鑑寺の南にして、谷を隔て隣る。いにしへは如意嶽樓門瀧の傍にありて、諸堂巍々たり。開基智証大師、

此山を巡覽し給ふ所に、忽然として一ツの鹿現れ、嶮岨を平均とし、大師の裳を喰て巖窟に至るに、觀世音の靈像現然

たり。大師歡喜して当寺の本尊とし給ふ。乱逆の世滅亡し、久しく荒廢の地となりしを、靈鑑寺尼公御再建あつて、旧

地の麓今の所に小堂をいとなみ給ふ

靈木杉 〔本堂の後にあり、希代の大木にして、老杉なり〕鹿宮〔杉の傍にあり〕

關伽井 〔同所にあり。靈泉にして寒暑に増減なし〕

龍王宮

〔如意寺旧地の東にあり。如意寺の伽藍の跡は、此社の巽二町にあり。是より三井寺に至る行程二十町許に

して、かの寺の講堂の前に出る〕

楼門瀧

〔談合谷の上にあり。いにしへ如意寺の楼門此傍にあり、此ゆへに名とす〕

池地藏

〔同所の奥にあり、山峰に石像の地藏尊を安置す。初めは如意寺にありしとぞ。池の名義詳ならず。近年都

下の諸人群参す、靈験新なり〕

葵谷

〔龍王宮のひがしにあり、此所山城近江の堺なり〕

千石岩

〔葵谷の左三町許にあり。岩の形高くして、俵物千石も積上し形に似たるとて名とするなり〕

如意城

〔旧蹟楼門の上五町許にあり、足利義晴公の造立なり。亡滅の後、天文十九年細川晴元再興す、同年三好

長慶放火して亡しぬ〕

大豊明神社 だいほうみやう 〔鹿谷村翼の方にあり。祭神牛頭天王ならんか、土人生土神とす。例祭は九月九日、神輿一基〕

辨慶屋敷 べんけいやしき 〔同村の境内、万無寺の北四町許に田の字あり〕

十禅師社 じふぜんじのやしろ 〔鹿谷の北、銀閣寺の門前にあり。祭神山王十禅師。又同所に八所明神の祠あり、共に土人生土神とす〕

中尾山 なかをやま 〔銀閣寺卯辰の間五町許にあり。足利義政公此地に居し給ふ時、此峰に番兵を置いて遠見をなさしむ。又将軍

義澄公此所に城を築く〕

白河 しろかは 〔水源は山中村よりながれて、末は鴨川に入、地名は北白川といふ〕

野なでしこ

名 寄 撫子の花はあだなる種なればいま白川の野にぞ散にき 小 町

拾遺愚草 春といへばさえゆく風に立浪の花にうづめる白川の里 定 家

玉吟集 波の音は松の嵐に聞ゆなり卯花かほる白川のさと 家 隆

白河陵 しらかはのみさぎ

〔延喜諸陵式云、太皇太后藤原氏、山城国愛宕郡上粟田郷にあり、陵戸三烟〕

愛宕墓 おたぎのはか

〔同諸陵式云、贈正一位源氏、清和太上天皇外祖母、山城国愛宕郡にあり。文徳実録云、斎衡三年六月、正三位源朝臣潔姫薨ず、白川の地を抉で葬る〕

後愛宕墓 ごおたぎのはか

〔三代実録云、貞観十四年九月二日、太政大臣従一位藤原朝臣良房薨。正一位忠仁公と諡す〕

忠仁公 さきのおほきおほいまうちきみを白川のあたりに

をくりける夜よめる

古 今

ちの涙おちてぞたきつ白河は君が世までの名こそ有けれ しらかは

素性法師